

整理番号 2018P-123

補助事業名 2018年度 お年寄りが幸せに暮らせる社会を創る活動 補助事業

補助事業者名 特定非営利活動法人暮らしネット・えん

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

この事業は3年計画で行っており、1年目（平成28年度）は、首都圏、関西圏の高齢者小規模共同居住の運営者を対象に持続的運営と社会的普及の条件について調査を行った。2年目（平成29年度）は、調査地を全国に広げるとともに2年間の調査結果を踏まえ高齢者グループリビングの実現のためのいくつかのモデルを提示することを目的とした。3年目（平成30年度）はさらに対象事例を広げモデルを増やすとともに、3年間の総括として高齢者グループリビングの社会的普及のための提案を行うことが目的である。

(2) 実施内容

① 高齢者グループリビングの社会的普及についての研究

https://www.glnet-groupliving.org/files/uploads/20190126_GLnet会報%20NO.20.pdf

ア 調査



平成30年11月21日
COCOせせらぎ見学調査



平成30年12月14日
ゆいまーる大曾根・
ゆいまーる神南見学調査



平成30年12月21日
銀木犀 浦安見学調査

写真なし

平成31年2月16日

個々セブン

(写真なし)

写真なし

平成31年2月13日

COCO宮内

(写真なし)

イ 川崎シンポジウム（平成31年3月31日）

https://www.glnet-groupliving.org/files/uploads/20190930_GLnet会報%20NO.21.pdf



基調講演 栃本一三郎先生



星川光子



中西真弓

近兼路子

林和秀

小島美里

大江守之



井上肇



宮野順子



土井原奈津江



会場の様子

ウ 見学会（平成31年3月30日）

https://www.glnet-groupliving.org/files/uploads/20190930_GLnet会報%20N0.21.pdf



おでんせ中の島



COCOせせらぎ



COCO宮内

2 予想される事業実施効果

- ・グループリビング運営への意欲と実力がある法人が実際に取り組むことへの支援へと発展。
- ・サービス付き高齢者向け住宅に、この仕組みが有効なことを広報することで、グループリビングを普及することが出来る。
- ・委員が事業者と関わりを持つことで、新しい学びができることや活動の連携が期待される。
- ・委員が共同で活動することで、ネットワークを強くでき、グループリビングについて話しあう場を提供できる。
- ・これらを通して、JKA補助で広がりを見せたグループリビングをより発展させることにつながる。

3 補助事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

会報NO. 19

<http://glnet-groupliving.org/files/uploads/GLnet会報NO.19.pdf>

GLnet 会報

NPO法人暮らしネット・えんをグループリビング運営協議会

元気印の樹を植えて行きましょう!

運営協議会が発足して7年目となりました。2012年からのGLNET会報を読み返してみると、グループリビング運営協議会常顧問の西條節子さんの「元気印の樹を植えて行こう!」という呼びかけに、さらなる元気が出てきました。

「いぶりたすけ愛」は西條さんの自立と共生の暮らしにあこがれ、ノウハウを惜しみなく分けていただき、GL「たすけ愛の家」を作って12年がすぎました。

以前、高校生がボランティア活動に来てくれて、生活者たちと楽しい時間を過ごしました。後日、「皆さんの元気な姿に感動して福祉の道を選びました。」と保健師の大学に合格したことを報告してくれたことがあります。元気印が若者の人生に大きな刺激を与えた、嬉しい経験です。これからも、西條さんの提唱する「元気印の樹を植えて行こう!」を受け継いでいきたいと思っています。

少子高齢社会は介護力の不足などのさまざまな不安を投げかけています。高齢者が地域力の要となって、高齢者、若者、子育てを助けて行かなければならない時が来ている。もともとグループリビングの「自立と共生」の暮らしを広げて、元気印でいたいものです。

これからも、元気印の樹を植えて行きましょう!



グループリビング運営協議会会長
NPO法人いぶりたすけ愛理事長
原川光子

運営協議会が発足して7年目となりました。2012年からのGLNET会報を読み返してみると、グループリビング運営協議会常顧問の西條節子さんの「元気印の樹を植えて行こう!」という呼びかけに、さらなる元気が出てきました。

「いぶりたすけ愛」は西條さんの自立と共生の暮らしにあこがれ、ノウハウを惜しみなく分けていただき、GL「たすけ愛の家」を作って12年がすぎました。

以前、高校生がボランティア活動に来てくれて、生活者たちと楽しい時間を過ごしました。後日、「皆さんの元気な姿に感動して福祉の道を選びました。」と保健師の大学に合格したことを報告してくれたことがあります。元気印が若者の人生に大きな刺激を与えた、嬉しい経験です。これからも、西條さんの提唱する「元気印の樹を植えて行こう!」を受け継いでいきたいと思っています。

少子高齢社会は介護力の不足などのさまざまな不安を投げかけています。高齢者が地域力の要となって、高齢者、若者、子育てを助けて行かなければならない時が来ている。もともとグループリビングの「自立と共生」の暮らしを広げて、元気印でいたいものです。

これからも、元気印の樹を植えて行きましょう!

たすけ愛の家、地域についてのご報告

9月4日、北海道釧路地方を襲撃した大きな地震が発生しました。たすけ愛の家は、震源の近くになりましたが、この地震により大きな被害は発生しませんでした。震源が近く離れたため、建物には被害がなかった。報告も届かぬお慰めのことでした。被災は翌日7日程度はとぞうです。水害は止まることなかったため、助かりましたと書かれていました。安心しました。(事務局)

1

会報NO. 20

http://glnet-groupliving.org/files/uploads/20190126_GLnet

GLnet 会報

NPO法人暮らしネット・えんをグループリビング運営協議会

平成30年度JKA補助事業

『高齢者グループリビングの社会的普及に向けた実践的調査研究事業』

経過報告

グループリビング運営協議会では、先駆的な高齢者小規模共同居住の運営者やこれからグループリビングをつくりたい事業者を対象に、法人の成り立ちや既存事業、地域性などが異なる中で運営について3年間の研究を行い、今年度が最終年度となります。様々な形態の高齢者住宅から運営の工夫や課題から学ぶことで、豊かに暮らすことができる高齢者住宅を普及させる進捗を図ることが目的です。

今年度は1月までにCOCOせせらぎ(神奈川県川崎市)、浦安(千葉県浦安市)、はっぴーのまろっけん(兵庫県神戸市)の調査を終了し、2月に割替セブン(兵庫県尼崎市)、COCO前南台(神奈川県藤沢市)、COCO宮内(神奈川県川崎市)等の調査を行う予定です。



COCOせせらぎ



ゆいまーる大曽根



緑木屋 浦安

委員会メンバー(アライエオ編)

上野 静代	京都府立大学 名誉教授
大江 守之	NPO法人COCO前南 理事長/慶應義塾大学 名誉教授
小島 美里	NPO法人暮らしネット・えん 代表理事
近藤 節子	慶應義塾大学社会学部研究科後期博士課程
土井原 杏津江	慶應義塾大学スポーツ医学研究所 研究員/SFC 研究所 上座所員
中西 真弓	神戸山手短期大学生活学科 准教授
林 聖博	NPO法人暮らしネット・えん 職員/立教大学大学院後期博士課程
宮野 剛子	京都府立大学大学院大学院 講師

1

会報NO. 21

http://glnet-groupliving.org/files/uploads/20190930_GLnet

GLnet 会報

NPO法人暮らしネット・えんをグループリビング運営協議会

公益財団法人JKA補助事業『お年寄り幸せに暮らせる社会を創る活動』

『高齢者グループリビングの社会的普及に向けた実践的調査研究事業』

川崎シンポジウム・グループリビング見学ツアーを開催しました。

NPO法人暮らしネット・えん主催、グループリビング運営協議会共催で、8月30日に川崎市内の3つのグループリビングの見学ツアー、8月31日に川崎市国際交流センターにて川崎シンポジウムを開催しました。

見学会では、おでん社の中島、COCO宮内、COCOせせらぎの集いで快調でした。住まいの見学の後に運営者による、経験の紹介や運営方法、現在の状況、課題についてお聞きする機会がありました。見学会は29人の参加がありました。

川崎シンポジウムは、「高齢者グループリビングが生まれ育った共同性」をテーマに3部構成になっており、まず、上智大学教授 坂本三郎氏の基調講演「Dオリティ・オブ・ダンス&タイピングからみたグループリビングで暮らすこと」に続いてセッション1「高齢者グループリビングと共同性」、セッション2「高齢者グループリビングの最住とケア」をテーマに運営者や研究者がこれまでの研究成果を発表しました。川崎シンポジウムは40人の参加がありました。

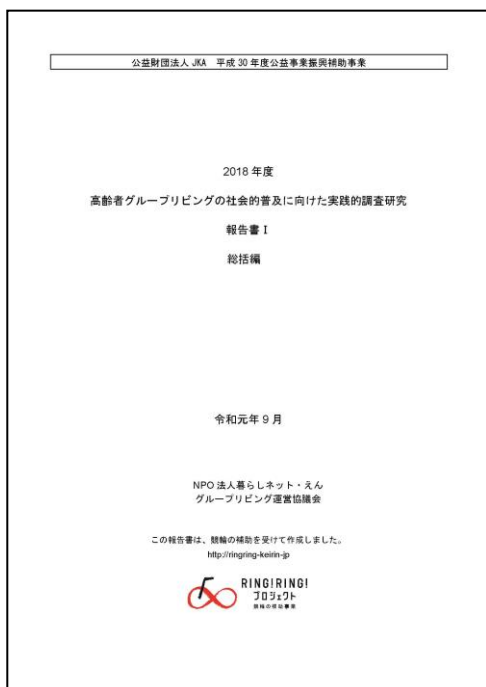


会場の様子

1

報告書Ⅰ 総括編

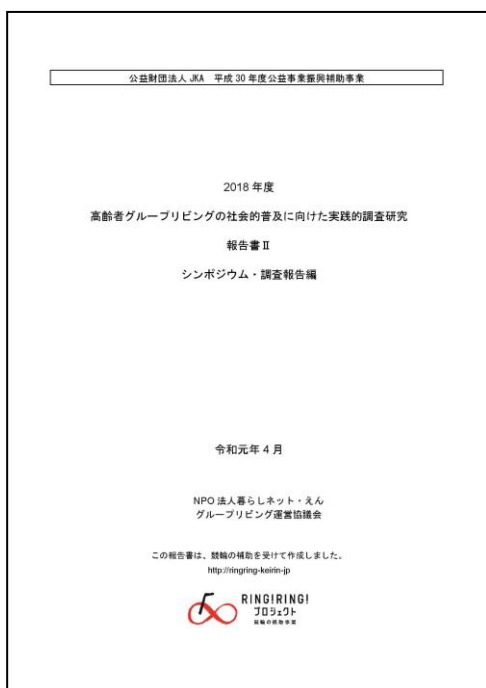
<https://www.glnet-groupliving.org/files/uploads/2018年度報告書Ⅰ%EF%BC%88総括編%EF%BC%89.pdf>



目次	
I. 研究の背景・目的	3
II. 高齢者共同居住の歩み振り返る	
グループリビングの成り立ちと発展	6
III. グループリビングのひろがり	
1. COCO 結いのき・若狭 10年目リビング1号館とリビング2号館開所で学んだ共同性の課題	10
2. たすけ家の家 広がるたすけ家の輪	12
IV. グループリビングの真実からみえてきたもの	
1. 高齢者小規模共同居住の活用モデルの構築に向けた課題整理	15
2. 高齢者グループリビングを核としたコミュニティ形成 ～COCO 宮内の運営主体の事例研究を通して～	29
3. 高齢者生活とグループリビングの課題～ケアと自己実現の追求に関する一考察～	48
4. 高齢者シェア居住の居住者と運営者によるケア～居住者相互のケアに注目して～	60
5. 高齢者グループリビングにおける、最期までの居住保障の実態と要件(1)	76
～JICA 調査報告書及びアンケート調査の分析による課題整理～	
6. 高齢者グループリビングにおける、最期までの居住保障の実態と要件(2) グループリビング運営者の立場から	88
V. グループリビング運営協議会の活動と見えてきた課題	93
VI. 高齢者グループリビングの多様化と参照モデル	97

報告書Ⅱ 調査・シンポジウム編

<http://glnet-groupliving.org/files/uploads/2018年度報告書Ⅱ%EF%BC%88調査・シンポジウム記録編%EF%BC%89.pdf>



目次	
I. 連続シンポジウム	
基礎講演 クオリティ・オブ・ライフデザインからみたグループリビングで暮らすということ	4
セッションⅠ 高齢者グループリビングと共同性*	
グループリビングを支える共同性～さくらと法隆寺の事例から～	9
グループリビングを核としたコミュニティ形成 ～COCO 宮内の運営主体の事例研究を通して～	19
セッションⅡ 高齢者グループリビングの居住とケア	
高齢者生活とグループリビングの課題～ケアと自己実現の追求に関する一考察～	17
高齢者シェア居住の居住者相互のケアと運営	31
高齢者グループリビングにおける、最期までの居住保障の実態と要件(1)	33
II. 調査報告	
(株) はっぴー はっぴーの家ろっけん	27
(株) シルバードウッド製本堂	31
NPO 法人グループリビング川崎 COCO 宮内	33
(株) コミュニティネット ゆいまる神南	39
(株) コミュニティネット ゆいまる大智恵	43

* 赤土聖代、星川光子氏の講演は報告書Ⅰに記載しています。

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 特定非営利活動法人暮らしネット・えん
(トクテイヒエイリハウジングクラシネットエン)

住 所： 〒352-0033
埼玉県新座市石神2-1-4

代 表 者： 代表理事 小島 美里 (コジマ ミサト)

担当部署：

担当者名： 代表理事 小島 美里 (コジマ ミサト)

電話番号： 048-481-4150

F A X： 048-201-1311

E-mail： npoennmk@jcom.home.ne.jp

U R L： <https://www.npoenn.com/>